

## 北海道大好き！～アイヌ語ゆかりの北海道の地名（第5回）

当社は、白老町において7月12日にオープンを予定しているアイヌ文化復興等に関するナショナルセンター「民族共生象徴空間（愛称：ウポポイ）」の「交流促進官民応援ネットワーク」に参画しています。

その開館がよいよ近づいてきました。先住民が使っていたアイヌ語を起源とした地名が多く残る我らのふるさと北海道。北海道で使う電気を生み出している発電所所在地の地名などについて、その由来をご紹介します。どうぞお楽しみに。

第5回目は、室蘭です。

### 室蘭（ムロラン）

室蘭は、明治後期に製鉄所ができて以来、「鉄のまち」として発展してきました。

馬蹄形の半島（絵鞆（えとも）半島）に市街地が広がっており、半島の南端部には地球岬があります。ここからは遠く渡島半島が見渡せる風光明媚な場所として、多くの観光客が訪れます。

また、室蘭は、焼き鳥やカレーラーメンなどの個性的なグルメも充実しています。

当社は1951（昭和26）年の創立時より、道内の中核都市10箇所に支店を設けていますが、ここ室蘭においても支店を設置し、胆振西部地域の拠点事業所として日々業務を行っています。サービスエリアは、室蘭市を中心に、東は白老町、西は豊浦町、北は伊達市（旧大滝村）までを管轄。管内には石油火力発電所の伊達発電所（合計出力 70 万kW）や、伊達ソーラー発電所（出力 1,000kW）などの発電施設があります。

室蘭市のシンボルである測量山（標高約200m）では、電波塔のライトアップが行われていますが、室蘭支店では、1988（昭和 63）年にライトアップが始まって以降、年に一度、ライトアップ機器の清掃を行い、1年の汚れを落としています。

さて、「室蘭」という地名ですが、明治の初めまでは、室蘭湾の北側、今の崎守町あたりの地名でした。絵鞆半島側に町の中心が移るまでは、ここに会所や港があったようです。

「室蘭」の呼び名は、アイヌ語「モロラン」（モ・ルエラニ mo -ruerani 小さい・坂）に由来すると考えられています。崎守町の集落にある坂から付けられたと言われていました。



測量山ライトアップ機器清掃

（出典：山田秀三「北海道の地名」）